

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム 金刀比羅		
所在地	〒804-0022 福岡県北九州市戸畑区金比羅町4番29号 TEL 093-873-8731		
自己評価作成日	平成29年08月30日	評価結果確定日	平成29年12月08日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成29年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあげているように「ぬくもりを感じてもらえる存在でいられるように」「心に寄り添った支援ができるように」と各職員が念頭におき入居者の皆様、ご家族と接している。入居者の皆様、ご家族から感謝の言葉や労いの言葉、笑顔を頂戴する事も多く、今後も「あなたがいってくれてよかった」と思ってもらえるように皆様と関わりを持っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然が残る緑豊かな金比羅池に隣接した9階建てビルの、2階～4階にある3ユニット(定員27名)のグループホーム「金刀比羅」がある。職員の大半が介護福祉士の資格を持ち、介護技術や意識の高い職員が、利用者一人ひとりと向き合い、悩みや心配事を受け止め、常に利用者の視点に立って対応し、日に日に元気な笑顔を取り戻す利用者、見守る家族からは喜びと感謝に包まれている。職員一人ひとりは、利用者の小さな変化も見逃さず、早期発見、治療に結びつき、利用者の健康管理は万全である。また、長年の懸案事項の地域との関係も、運営推進会議を通じて地域の行事や活動に、利用者職員が参加し、地域交流の輪が広がっている。今後は、隣接の同一法人事業所と協働で、地域福祉の拠点として、社会貢献に取り組み、益々期待が広がるグループホーム「金刀比羅」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各所に理念を掲示し各職員が常に意識できるようにしている。また、ケアプランを作成する際や日々の介護を行う際にも念頭におき実践できるようにしている。	「あなたがいてくれてよかった」という利用者の言葉をきっかけに、自分たちの介護の意味を振り返り、4年前に新たな理念、『めぐりを胸に。めぐり逢いはいつも傍にある。その瞬間を心に刻もう。』を職員全員で作成し、ケアプランの見直しの時等に理念を振り返り、確認を行ない、理念に基づいた介護の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や近隣への散歩、買い物に出掛け社会との繋がりを感じて頂けるようにしている。身体レベルが低下している方でも繋がりを感じて頂けるよう他フロアや1階に行くなどし触れ合える機会を設けている。	運営推進会議の委員を通じて地域との関係が深まり、地域の盆踊りや福祉祭りに参加したり、戸畑祇園の打ち込みの見学、近隣の小学校の合唱部との交流、ボランティアの受け入れ等、利用者が地域との繋がりを感じながら暮らし続けていけるよう支援している。地域の行事や活動に、職員が準備段階から参加できる取り組みを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加しており、認知症の方の理解を頂ける機会はあるが、支援方法の理解や活かせる機会を持っておらず今後の課題である。運営推進会議に地域の方を招き今後も努力していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加頂いたご家族や地域の方々などからの質問や意見を受けとめ支援に反映させるなどサービスの向上に努めている。	会議は、地域代表、ボランティア、社協、地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月毎に開催し、ホームの活動報告、事故報告の他に、「認知症について」の勉強会を行う等、内容の充実に向けて工夫している。運営推進会議の参加委員の協力を得て、地域との関係が築かれ、相互協力体制を整えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加して頂き、事業所の取り組みをお伝えしアドバイスを頂いている。今後も積極的にアプローチし連携を取っていきたい。	管理者は、行政担当窓口にも、ホームの現状、事故等の相談を行い、情報交換し連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの実情を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。月に1回、介護サービス相談員の受け入れを行い、利用者とは談笑しながら楽しいひと時を過ごしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解は出来ていても日々介護を行う中で身体拘束にあたらないか職員間で話し合っている。エレベーターの施錠に関してはご家族の方に承諾をもらい閉塞感のないよう出来る限り入居者の方の希望に添えるよう努力している。	身体拘束廃止委員会を中心に、定期的に勉強会で学ぶ機会を設け、「身体拘束はしない」を掲げ、拘束は行っていない。職員は、言葉や薬の抑制も含めた拘束が、利用者には及ぼす影響を理解し、禁止行為の具体的な事例を検証し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、保安上の問題で、家族の了承を得てエレベーターは終日ロックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、研修で得た知識を他職員にも伝達する等し、知識を深めるように努めている。日々介護を行う中でも虐待にあたる行為でないかを職員間で話し合いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいる為、全職員で関わり方やサービスについて学んでいる。	現在、権利擁護に関する制度の利用者がいるので、職員は制度の重要性についての理解は出来ている。外部研修で権利擁護の制度について学んだ職員が、伝達研修を行い、資料を閲覧し知識を共有しながら制度の理解を深めている。利用者や家族が制度を必要とする時には、内容の説明を行い、申請機関へ橋渡し出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の方やご家族の方が不安を抱えている際にはわかりやすくご理解頂けるまで説明させて頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段のコミュニケーションの中でも要望を伺うようにしているが、各フロアに意見箱を設置し意見を頂く機会を設けている。また、運営推進会議にご家族や入居者の方も参加頂きその都度意見、要望を伺い改善に努めている。	職員は利用者の要望を聴き取り、家族の面会や行事参加の時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営やサービスの向上に活かしている。利用者と一緒に食事作りがしたいという家族の要望を実現した事で、家族のホームに対する信頼が深まり、協力者になって頂けた事例もあり、一つひとつの思いを繋げていく努力をしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けている。また、定期的にヒヤリングを行っている。	毎月1回、3フロア毎に職員ミーティングを開催し、限られた時間の中で充実した会議になるよう、事前に意見をまとめておく等、工夫して取り組み、職員の意見や要望、アイデアを出し合っている。また、定期的に管理者と職員が個人面談を行い、職員一人ひとりの思いを聴き取り、悩みや心配事の相談にも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	得意な事は積極的に行ってもらっている。法人からは永年勤続者へ報奨金の支給や資格手当等を支給するなどし配慮している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ヒヤリングや個人面談を実施し、本人の希望や能力が活かせるように配慮している。	職員の休憩時間や希望休、勤務体制に配慮し、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。長年勤務している職員が多く、職員の離職も少ない。新人研修やスキルアップ研修、資格取得への挑戦等、職員の質の向上に向けて取り組んでいる。また、職員の募集は年齢や性別の制限はなく、介護に対する考えや人柄を優先している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや勉強会を通じて人権についての理解と知識が深められるように取り組んでいる。	利用者の人権を尊重する介護の在り方について、新人研修や職員会議の中で理解を深め、利用者のこれまでの生活環境や個性に配慮した介護サービスの提供に取り組み、言葉遣いや対応に注意し、利用者の尊厳を守る介護サービスの提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のスケジュールを職員へ知らせ希望者の参加を優遇しているが、職員のスキルに合った研修への参加も促している。研修で得た知識を発表する場、伝達する機会を設け、職員全体のスキルが上がるように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と共に学ぶ研修や勉強会の機会を設けたり法人内外での研修に参加し日々の業務や入居者の方との関わりを体感し意見交換を行いサービスの向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か面談を行いその方を知る努力を行っている。また、入居後もコミュニケーションを図り話しやすい環境、信頼関係を築く事に努め意思を表して頂けるように働きかけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族の思いや真意を知れるように話し合いの機会を設けている。入居後も入居者の方の状態報告を行いながら少しでも不安を取り除けるようにコミュニケーションを図り信頼関係を築く努力をしている。今後は全職員が対応できるようになる事が課題である。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族共に現状を受容頂けるように話し合いの場を設けている。その上で必要な支援やサービスを提案し対応させて頂けるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「どんな方法なら失敗せずに出来るか」を念頭におき、お一人お一人見極めまだまだ自分は出来ると思っただけのように心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者の方が共に過ごせる機会を出来る限り持って頂けるよう働きかけたり、行事の際はご家族の方にも準備等手伝って頂いている。普段見る事のない姿を見て「こんな事も出来るんですね。」と驚かれる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方が地域の盆踊りやお墓まいり等に連れて行って下さる。また、セニアハウスの方が遊びに来て下さるのでお茶を飲みながらゆっくり過ごされている。	併設法人内の他事業所から入居の利用者が多いため、以前お世話になっていた馴染みの職員が、利用者に会いに訪れたり、友人が遊びに来たりとの交流が継続している。また、利用者の家族や親戚等が面会される時は、ゆっくり話ができるように場所やお茶を提供し、いつでも面会に来ていただけるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方の関係を把握し、お互いが協力し合えるように席をその場面にあわせ変えている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、面会に行くなどした際にご家族の相談を受ける事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、思いや要望を言って頂けるような信頼関係を築けるように努めている。その思いをケアプランに反映し実現できるように努めている。	担当職員は、利用者がふと漏らした言葉を聞き取り記録し、職員間で内容を共有している。意向表出が難しい利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、一人ひとりの思いの実践に取り組んでいる。ベテランの職員が多く、利用者の表情を見極め、家族と密に話し合い、ちょっとした表情や行動から利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を伺い得た情報はケース記録や情報提供書に記載しスタッフ間で共有できるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせて共に活動する事で、体や心の状態を把握している。また、記録に残し申し送りを行いスタッフ間で共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望、ご家族の思いを念頭におき介護にあたっている。実践した上での状態の変化や意見をモニタリング、アセスメントに反映させより良く暮らせる為のケアプランとなるよう努めている。	担当職員は、利用者や家族の意見や要望を聞き取り、担当者会議や、モニタリングの中で職員間で検討し、利用者の介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、その都度介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の記録に記入している。気付きは個別記録用紙の気付いた事の欄に記入し、情報の共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとってより良い事であるようにサービス内容を検討している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	よく行かれていた店や場所へそれまで築いてこられた人々や地域と関わりを継続できるよう、また社会性が保てるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診時に状態報告を行っている。その際、ご家族の意向も伝えている。	母体医療法人の医師を主治医とし、往診や定期受診に職員が同行し、結果を家族に報告している。夜間や緊急時には、同法人の総合病院の病棟に直接電話で相談する事が可能であり、安心の医療体制が整っている。また、入居以前からのかかりつけ医受診の希望があれば、医療情報の提供に努め、家族が同行受診できるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度日頃の様子を伝え情報を共有している。また状態に変化が見られる時は相談や指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、面会にて状態を確認すると共に医師、看護師、ソーシャルワーカーと連携を図りながら安心して過ごせる環境作りに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しているが重度化や終末期を迎えようとしている際にもその都度説明しご理解頂けるよう配慮している。	契約時にターミナルケアについて利用者や家族に説明し、「終末期、行き先はどこがあるのだろう」、といった家族の不安を聞き取り、重度化した場合における対応に係る指針を基に、予測出来る可能性を説明し、次の場所を一緒に探しませんかという話をしている。近隣の施設を見学し、知識を得て紹介出来るよう準備している。また、家族の希望を見極めながら、看取りに向けての環境整備も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や研修にて急変時の対応を振り返ると共にマニュアルの作成やAEDを設置し緊急時でも対応できるように備えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防団、近隣施設、自治会の方々に協力して頂き日中、夜間を想定した避難訓練を実施している。	防災訓練を年2回実施し、1回は消防団や地域住民参加で近隣同一法人施設と合同で開催し、1回はグループホームのみで行っている。夜間想定訓練を実施し、2階、3階、4階の利用者を速やかに一時避難場所に誘導する方法を確認している。また、非常災害時における非常食については、食事の委託業者による供給体制が整っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方である事、一人ひとり人格を持っている事を心に留め、敬意を持って対応している。	ホームの勉強会で、利用者の人権を尊重する介護の在り方を話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を心掛けている。利用者一人ひとりが「楽しい」と思える事を考え、実践に向けて取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常日頃説明し、周知を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り希望や思いを表しやすいよう信頼関係を築いている。また、ご本人から「やろうか?」と言って頂けるような雰囲気作り努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、入居前の生活リズムに出来る限りそって支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の訪問理美容の利用やその日に着る洋服を選んで頂いたりしている。お化粧をする習慣のあった方には、お化粧を促しこれまでの生活を出来る限り続けられるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けに参加して頂き提供されるだけの食事にしないようにしている。また、その日の気分や体調により負担にならないよう配慮している。お好きな物を購入したり外食として召し上がって頂いたり皆さんで作ったりする機会を設け食事を楽しんで頂けるよう支援している。	栄養バランスやカロリー計算された料理を、法人厨房で作り、各ユニットで盛り付けをして提供している。利用者と一緒に作る等、関わってもらいながら作り、利用者の食べたい物を聞いて一緒に作ったり、外食に出かける等、食事を楽しむ事の出来る支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックしスタッフ間で把握している。食事量の少ない方にはかかりつけ医、栄養士、ご家族に相談しその方に合った食事が提供出来るよう支援している。また、月に一度栄養士と会議を行い入居者の方の意見を伝えている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて歯磨きを促し磨き残しは介助を行っている。また、その方に合ったブラシやスポンジを使用し口腔内が清潔に保てるようにしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	申し送りや排泄チェック表を活用し、排尿・排便パターンを把握しトイレ誘導や介助を行っている。出来る限りトイレで排泄できるよう2名にて介助を行うこともある。	立位の難しい方は、ベッド上でオムツ対応であるが、職員は、排泄チェック表から、利用者一人ひとりのパターンを把握し、それぞれに合った声掛けや誘導により、トイレでの自立に向けた排泄の支援を行っている。また、かゆみなどがあれば、速やかにパットの種類を検討したり、オムツの当て方についても職員間で話し合い、工夫を重ねて支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を行って頂いたり毎朝牛乳を摂取して頂いたりお米に繊維質の多い麦やビタミンサプリを混ぜ提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	間隔が空きすぎないように予定は立ててはいるがその日の気分や体調にあわせて行っている。	職員は、利用者の希望に応じた入浴支援に取り組み、最低でも3日に1回は入れるように取り組んでいる。車椅子の方については、その日の各ユニットのスタッフが朝のミーティングで話し合い、1台のシャワーチェアを融通しながら、シャワー浴を実施している。入浴拒否の方には、無理強いせず清拭や足浴に変更し、清潔保持に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムやその日の体調に合わせてゆっくり過ごして頂いたり日中も横になる時間を設ける等し休息できる環境を作っている。また、室温調節を行い気持ち良く眠れるようにしている。気持ちが落ち着かない時はスタッフとゆっくり話している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をもとに薬の効能、副作用を出来る限り把握し情報を共有している。また、変化が見られるようであれば、かかりつけ医への報告、指示を仰いでいる。薬に関する研修に参加し知識を得るよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で張り合いや喜びを感じて頂けるように得意な事やお好きな事を見極め出来る事は行って頂き役割や日課として感じて頂けるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望に応じて散歩や買い物、外食へ出掛けている。また、ご家族の協力のもと、お見舞いやお墓参りなどにも出掛けられている。	桜や紅葉の美しい金比羅池に隣接し、天気の良い日は散歩に出かけ、四季折々の季節の変化を五感で感じてもらっている。また、地域の盆踊りや、戸畑祇園山笠の見物、個別の買い物や外食等にも出かけている。飲み終わった牛乳パックを洗ってスーパーのリサイクル箱に入れに行く等、外出のきっかけ作りにも取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際には、お金を手渡し自らお支払頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から頂いたプレゼントのお礼に電話をかけたり、ご本人の希望にてご家族に電話をかけられている。また、年賀状や行事の案内状を書いて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような飾り付けを入居者の方で行っている。(日々の作品や写真等)また、湿度・温度計を設置し管理を行い快適に過ごせるよう努めている。	9階建てビルの2、3、4階部分にある3ユニットのホームは、窓から金比羅池周辺を歩いている人の姿が見られ、明るく開放的な雰囲気である。室内には、花の好きな利用者が散歩の時に摘んできた野の花が生けられ、皆で書いた絵を飾る等、利用者がホームの中で楽しい暮らしが出来るように支援し、明るく温かみのある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの視線がどこに向くのかや、今の気分を考えその都度さりげなく居場所を変えている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、馴染みのある物を置く事で、居心地のよい場所となるように配慮している。また、ご本人の意向を尊重し家具等の配置を行っている。	利用者の馴染みの家具や好みの物を、出来るだけ持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、自宅と違和感のない、その人らしい居室となるよう支援している。居室の掃除は、利用者と一緒に出来るだけ毎日行うようにして、利用者が気持ちよく過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの入口に名前を書いてわかるようにしている。また、歩行器や車イスを自操しても接触しないようスペースを確保している。出来る事は行って頂きながら生き活きた生活が送れるよう支援している。		